**理事懇話会の資料について（持続可能なGKP運営に向けた課題と取組案）**

**■GKP予算申請基準について（案）**

1. ベーシック基準

・GKPの目的（広報活動による下水道のプレゼンス向上）のため必要な予算か？

・GKP個人会員、団体会員のメリットになっているか？

会員へのメリットとは？

前提として、「下水道のプレゼンスを高める」というGKPの活動主旨に賛同して入会していただいているので、集まったお金を使ってGKPが活動することにより下水道の理解が深まり、価値が認められ、下水道事業がよりよく進められる状態になることが最大のメリットなのではないか。

その上で、

個人　　　　　 広報活動の輪に入る機会を得る、広報技術の学びの機会を得る、様々な人と繋がれる

団体（自治体）　 マンホールサミット等のGKPの目玉のイベントを招致できる、全国の広報の取り組

み事例等に関する情報が入る、様々な関係者とつながれる

団体（民間）　 企業イメージ向上（リクルート強化）、国や自治体とのつながり、社員の意欲向上などか。

・特定の個人や団体の事業活動の支援に繋がっていないか？（目的は広報の支援）

・GKP以外の個人・法人・団体の事業費等の支援につながる費用は計上しない。

・GKP以外の個人・法人・団体の事業を広報する費用は計上しない。

（事業の成果を「BISTORO下水道」として広報するのは可能）

⇩

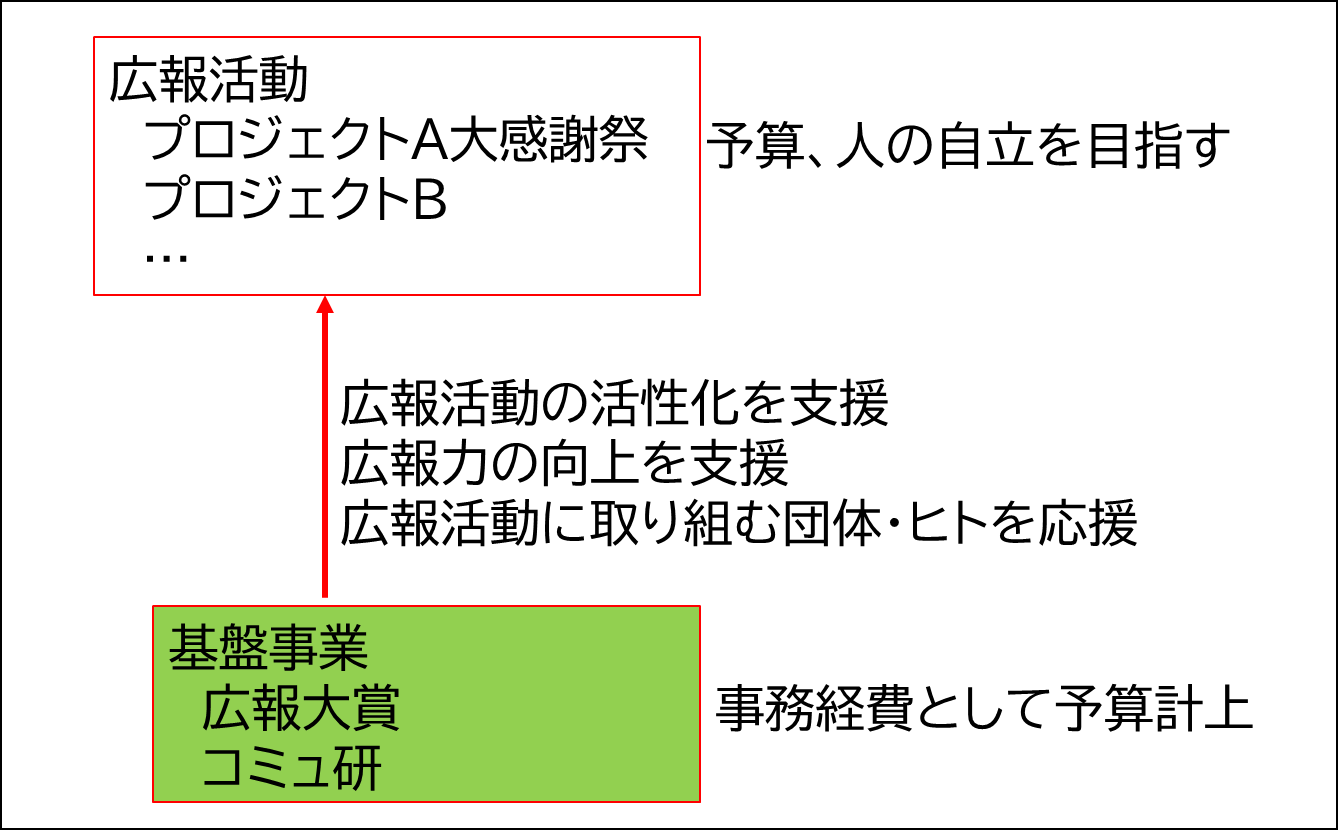
1. 各プロジェクトの努力目標の設定と予算の考え方

GKPには、機能や役割を維持・向上させるために持続させなければならない基盤事業がある。

同基盤事業と、広報活動を推進するプロジェクトを下記のように整理する。

基盤事業：（GKP広報大賞、コミュニティ研究会）

広報活動：（広報を推進するプロジェクト）

****

**●広報活動（大感謝祭・サミット等のPJ）**

■自立に向けた努力目標を設定

・プロジェクト協賛企業や自治体で協賛金など調達できないか？

・各プロジェクトに参加するための交通費はボランティア参加（法人・団体・自治体等組織に属さない個人・有志での参加）のみGKPで負担（但し、交通費は１,000円/日まで）

※レンタカーなどを借りて機材を運搬するなど、「運搬」業務が発生する場合、その費用は計上可能とする。

**●基盤事業（広報大賞・コミュ研等）**

・事務経費として予算を計上する

・GKPを支える基盤事業であるため、企画運営委員会メンバーは**全員参加を原則**とする。

・運営協力への参加のための交通費はボランティア参加（法人・団体・自治体等組織に属さない個人・有志での参加）のみGKPで負担（但し、交通費は１,000円/日まで）

⇩

1. GKP企画運営委員会、事務局業務

・委員会参加のための交通費は所属団体にて負担

・各プロジェクト参加のための交通費はボランティア参加（法人・団体・自治体等組織に属さない個人・有志での参加）のみGKPで負担（但し、交通費は１,000円/日まで）

※「事務局として例外的に交通費、宿泊費が発生する場合は、都度協議する」旨の文言を入れる  
（片道〇千円？・旅費規程的な）

■上記の基準に照らし疑問と思える項目を以下に示します。

　１）BISTRO下水道

　　　　・ファーム支援費　　150,000

　　　　・商品開発　　　　　　50,000

　　　　・通販企画準備　　　20,000

　　　　・通信費　　　　　　　　15,000

・ファーム支援費15万円は「つくえらぼ」の事業の支援になってしまっている。（団体の事業費等の支援につながる費用は計上しないルール）

・一方、行政も団体も力を入れている領域でもあるため、「ビストロの広報」（事業の広報ではなく、成果の広報）という形で予算付けは可

　２）広報大賞

　　　　・審査会運営費　　　　50,000　配信用PC周辺機器

3エコプロ

　・分担金の根拠を明確化　700,000

1. キッチンバス工業会連携

　　・川柳大会協賛金　　100,000　協賛企業を募ることはできないか

1. GKPチーム九州

　　・広報イベント開催費　　80,000　　協賛企業を募ることかできないか

1. マンホールカード

　　・交通費　　　80,000　　所属団体にて負担できないか

1. マンホールサミット

　　・グッツ企業出展補助費　　　40,000　出展料を貰えないのか

　　・協力スタッフ（GKP関係者）昼食代　　15,000　　ボランティアスタッフのみ支給に

1. 下水道展パブリックゾーン

　　・みらい研究発表資料制作　　100,000　　小中学生のみ支給にできないか

9）東京湾大感謝祭

　　　　　・水の天使出演料　　100,000　　水の天使が必要か

　　　　　・分担金　　　　　　　　300,000　　協賛企業との分担金の割合を明確化する必要あり

10）下水道を未来につなげる会

　　　　　・水の天使派遣費　　500,000　　水の天使が必要か（費用対効果は？）

　　　　　・パンフ、ノベルティ、広報費　　220,000　ノベルティは参加企業で調達できないか

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　参加企業に対して協賛金をお願いできないか

以上

自立の定義と判断基準、方法（案）

〇自立の定義

* プロジェクトが、ヒト・モノ・カネを含めて自主的にまわっていくことを「自立」と定義する。
* 予算については、原則、GKPからの支援を０にすることとする。ただし、例えば他の団体等から協賛金を集める呼び水として最低限の金額（数万円程度）について、GKPから支出することは可能とする。
* 人については、自立後もGKP会員がプロジェクトに参加あるいは人的協力することを原則とする。（GKP外の法人や組織にプロジェクトの運営を委ねる場合は、企画運営委員会で協議して判断する）
* 自立は前述の通りプロジェクトにかかわるすべての要素が自主的にまわる成熟した状態をいうが、その状態への到達をもってGKPからの独立（卒業）を促すものではない。
* 事務局においては、自立後も最低限必要な事務（例えば、最低限の金額を支払う場合の事務手続き、あるいは、GKPの名称を使って依頼文を出す際の事前確認等）を行うものとする。
* 以上については、事務局が定める業務フローに基づいて運用することとする。
* 上記を踏まえ、GKPのすべてのプロジェクトは自立をめざすものとする。

〇判断基準

上記をふまえると、予算及び事務局との業務分担が自立できているかどうかの判断要素となるため、以下の２つを自立の判断基準とする

* 「下水道広報プラットホーム業務分担案」に準じて活動ができるプロジェクトであること
* 予算面では、自立の定義に記されている条件内で活動していること

〇判断方法

* 上記のルール及び判断基準にもとづき、企画運営委員のコアメンバーで適宜各プロジェクトが自立できているかどうかを確認するとともに、必要に応じて企画運営委員会に諮りつつ自立を促すこととする。

**予算見直しのお願い**

下記の点について、改めて予算要求を見直し、4月17日（月）までに事務局に提出いただく。

　１）BISTRO下水道

　　　　・ファーム支援費　　150,000

　　　　・商品開発　　　　　　50,000

　　　　・通販企画準備　　　20,000

　　　　・通信費　　　　　　　　15,000

　２）広報大賞

　　　　・審査会運営費　　　　50,000　配信用PC周辺機器

３）エコプロ

　・分担金の根拠を明確化　700,000

４）キッチンバス工業会連携

　　・川柳大会協賛金　　100,000　協賛企業を募ることはできないか

５）GKPチーム九州

　　・広報イベント開催費　　80,000　　協賛企業を募ることかできないか

６）マンホールカード

　　・交通費　　　80,000　　所属団体にて負担できないか

７）マンホールサミット

　　・グッツ企業出展補助費　　　40,000　出展料を貰えないのか

　　・協力スタッフ（GKP関係者）昼食代　　15,000　　ボランティアスタッフのみ支給に

８）下水道展パブリックゾーン

　　・みらい研究発表資料制作　　100,000　　小中学生のみ支給にできないか

9）東京湾大感謝祭

　　　　　・水の天使出演料　　100,000　　水の天使が必要か

　　　　　・分担金　　　　　　　　300,000　　協賛企業との分担金の割合を明確化する必要あり

10）下水道を未来につなげる会

　　　　　・水の天使派遣費　　500,000　　水の天使が必要か（費用対効果は？）

　　　　　・パンフ、ノベルティ、広報費　　220,000　ノベルティは参加企業で調達できないか

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　参加企業に対して協賛金をお願いできないか

**今後のＧＫＰ活動の企画運営について（案）**

1. **定義・背景・課題**
   1. **GKPの目的を達成するための役割〔定義〕**

【役割】

・これまで下水道界で展開されてきた広報活動を外部につなぐ

・産官学の垣根を超えた新たな広報活動を展開する下水道界のプラットフォーム

【目的】規約第2条

「下水道は暮らしや社会経済を支えている私たちの財産です。この財産を未来に引き継ぎ、活かしていくためには、利用者である国民一人ひとりに下水道の理解を深めてもらう必要があります」（規約より）

* 1. **ＧＫＰのマネジメントについての整理〔背景〕**

・プレーヤーの自主性（自立化）と事務局の負担軽減を図るため

「ＧＫＰの今後の進め方について」（令和2年6月）によるOSとアプリの関係を整理

* 1. **ＧＫＰ運営上の課題**

・具体的な業務の明記や細部の規定がないため、人によって解釈が異なり連携に繋がっていない

【ＧＫＰがＯＳとして各活動（アプリ）に提供できる機能・効果事例】「ＧＫＰの今後の進め方について」より

企画運営委員会などの場を通じた連携拡大による活動内容や対外的訴求効果の充実

ＧＫＰ会員による支援（活動予算、人的支援など）

ＧＫＰのＨＰでの情報発信など事務局的機能の支援

ＧＫＰの名で活動することによるマスコミ等への訴求効果、集客力の向上効果

・実質的な企画・運営は誰が行うのか？

　　・取組の自由度を持たせることは重要、しかし、実質の企画運営はどのように行うのか？

・最終責任を負うのは会長、委員長なのか？

1. **ＧＫＰの進化・成熟化に向けた調整**

・GKPの状況判断・企画力強化

・「プレーヤーチーム（アプリ）」と「事務局（OS）」の関係、具体的な取組内容

・PJの成果・進捗度の把握・成熟度・自立度の評価・判断

・収入拡大

等について、議論していく必要があるのではないか・・

**●GKP理事会・栗原アドバイザー、国土交通省下水道部・堂園調整官（R4/09/12）**

〇GKPのマネジメント

・具体的な業務の明記や細部の規定がないため、人によって解釈が異なり連携に繋がっていない

・下水道協会側は「協会は事務局に徹する」、プレーヤー側は「協会は事務局だけでなくプレーヤーの支援も行う」と全く受け取りからが違っている

・事務局役割の明確化については、令和２年6月24日の理事会で、骨子方針の合意を得たものの「具体的なアクション検討についてはコロナ禍で議論が進まず議論できていない。

・実態として、企画運営委員会も委員長は多忙で、予算決算の承認・プロジェクトの内容・進捗報告に留まり、実際の企画を議論できておらず「GKPのマネジメント」「企画調整」が出来ていない

・「プレーヤーチーム（アプリ）」と「事務局（OS）」の関係

・企画運営・取組内容・GKPのマネジメント〔体制・役割〕

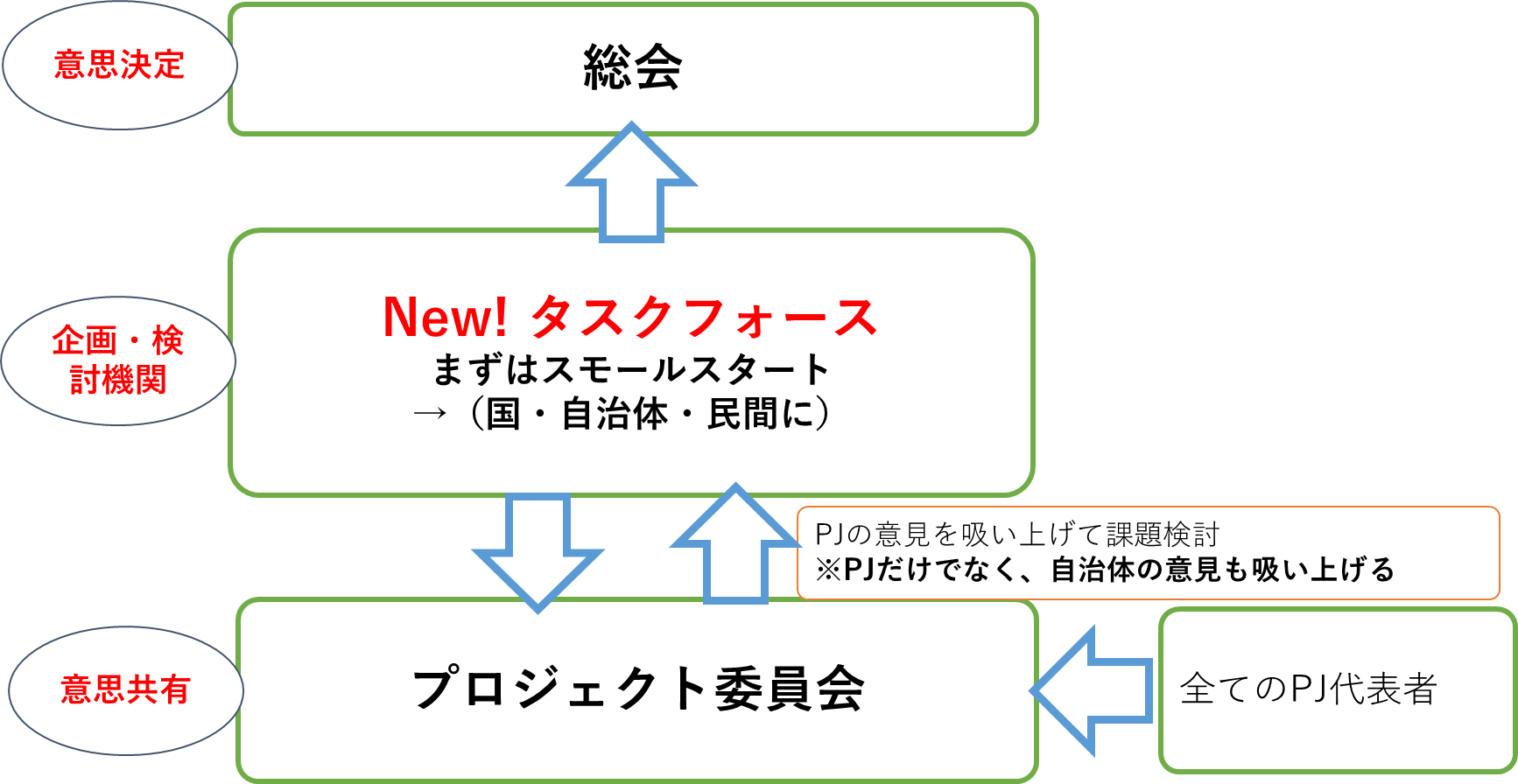
・PJの成果・進捗度の把握・成熟度・自立度、収入拡大　など

企画運営委員会のコアメンバーで議論を行う必要がある

**●GKPマネジメント体制（案１）**

**タスクフォースを、まずはコアメンバー会議のようなイメージでスモールスタート**

**従来の企画運営委員会を「プロジェクト委員会」（意志共有の場）に変更**

****

**●GKPマネジメント体制（案２）**

**GKPプレーヤー**

**部会長**

**マンホールC**

**コミュ研究会**

**Fica（フィカ）**

**情報発信・コミュニケーション部会**

**キッチンB**

**BISTRO**

**未来会**

**市民科学**

**部会長**

**担い手づくり・層の拡大部会**

**イベント部会**

**部会長**

**インフラTC**

**東京湾**

**エコプロ**

**マンホールS**

**九　州**

**北海道**

**部会長**

**エリアマネジメント部会**

**関　西**

総会審議事項

GKP運営事項

の決定

**理事会**

**会員**

プレーヤーの立案自立化に向けた部会全体のマネジメント

**GKPマネジメント（月例会議）**

GKP全体の

企画・運営・PJ加速化支援

**GKP広報戦略タスクフォース**

国土交通省企画課

理事会代表

地方自治体代表

下水道協会広報課（事務局）

**●GKPマネジメント体制（案３）**

|  |
| --- |
|  |

**タスクフォースについて**

本議論を進めている「コアメンバー」のような構成が一案として考えられる。

今の企画運営委員長にあたるポスト（国交省事業調整官）を除いて、特定組織の役職に紐づけてタスクフォースの人選を行うのではなく、その時々で熱量の高いメンバーに声をかけて協力してもらうのがよいのではないか。

**GKPの状況把握・判断・企画力強化について**

日頃から活動しているメンバーだからこそ、他プロジェクトが課題にぶつかった時など、その状況が的確に理解できるのではないか。

コアメンバーを中心としたタスクフォースが、常にグループメール等で共有される情報を基に、うまくいっていない部分等について指摘や助言、改善の手伝いなどを行う。

プロジェクトの予算削減などに関しても明確なルール化がなされていれば、特段エライ人を置かなくても対応は可能である。

ただ、極めて客観的な視点から状況を整理できる人は必要かもしれないので、国交省事業調整官以外に長く務めてもらえる、能力の高い人に協力をしていただく必要がある。

**プレーヤー（アプリ）と事務局（ＯＳ）の関係、具体的な取り組み内容について**

アプリとOSの役割については、先日の企画運営委員会で示された「下水道広報プラットホーム業務分担案」（事務局作成の星取表）が基本となる。

本資料１ページ目のポンチ絵（GKP機能の見直しの考え方について）の右側の絵のツノ（プレーヤーにを支える突起）の部分は、上記業務分担に書ききれない（事前に想定できない）プロジェクトに対するサポート等に当たるが、これはタスクフォース内で誰が動くのかをその都度判断する。

例えば、事務局業務の範囲内で対応できることであれば事務局が対応し、それ以外は各コアメンバーの状況（スキル、時間的余裕など）を見て決める。

**プロジェクトの成果・進捗度の把握・成熟度・自立度の評価・判断について**

自立度については、別資料「自立の定義と判断基準」に基づき、タスクフォース（コアメンバー）が判断する。

成果や進捗度等は、プロジェクトの性質にも左右される部分がある。そのあたりは常日頃共有される情報（グループメール）によってタスクフォースが判断し、例えば他プロジェクトと連携することによって効果を増大させるなどのプランを共に考える。また、プロジェクト推進上で悩んだプロジェクトには積極的にPJ間会議（Fika）を活用してもらい、問題の早期解決を図る。

**収入拡大について**

村仲委員から提案された「マンホールカード検索サイトへのバナー広告掲載」が実現できるようであれば、R５年度にも着手すべきと考える。